コロナ禍の中で…「多面的・複眼的な視点とポジティブな姿勢を！」

奈良県特別支援学校長会
会長　　前川　裕道
（奈良県立奈良西養護学校長）

一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会の皆様には、平素より奈良県における特別支援教育の充実、発展のため、多大なるご支援を賜り、厚く感謝申しあげます。

さて、一昨年より新型コロナウイルス感染症が拡がり、令和３年度におきましても、それぞれの学校で、手洗いや換気、消毒など、日々の感染対策に努めてまいりました。また、各種の学校行事や式典、日々の授業等につきましても、実施時期を延期したり、活動内容を縮小したりなど、様々な見直しを行いました。その中には、以前はできていたことが、同じようにはできなくなったことも、少なくありませんでした。しかし、他の方法を工夫することを通じて、新たな発見をすることもありました。

例えば、こんなことがありました。奈良西養護学校では、住宅地内に立地しているという条件を生かし、開校当初から地域の学校や施設の方々との交流を深めてきましたが、感染症が拡大する中で、直接出会って活動をともにすることはできなくなりました。一方で、タブレット端末や Wi-Fi などの整備が進むことで、リモートで活動を共有することができるようになってきました。そこで、本校とそれぞれの学校や園、施設をインターネットでつなぎ、モニターを介しての間接的な交流を行うこととしました。モニター越しではありますが、自己紹介をしたり、質問コーナーをつくったり、また絵本の読み聞かせや歌をうたったりなど、楽しく取り組むことができました。間接的な交流とすることで、緊張することなく、落ち着いて参加できる児童生徒もいました。勿論、直接出会ってこそ学べることはありますが、リモートで行うことのプラス面に気付くことができました。

また、各学校において、感染対策の検討を行うことを通じて、行事等の精選や諸会議の効率化なども、進んできています。子どもたちの教育をより充実させていくためには、教職員の働き方を改革し、授業づくりにかかる時間を確保していくことが必要です。コロナ禍によって、「待ったなし」の見直しが求められる中、これまで「従来どおり」としてきたことを改めて見直すことで、教職員の働き方を改革するとともに、子どもたちへの教育実践のさらなる改善がはかられると期待しています。

感染症への対策を行うことを通じて、何事も、「多面的・複眼的な視点」で事象をとらえ、ネガティブな面だけでなく、ポジティブで前向きな姿勢でいることの大切さを学びました。これからの時代は、変化の大きい予測のつかない出来事が起こると言われています。どんなときでも、何があっても、ポジティブで前向きな姿勢で臨みたいと思います。

最後に、育成会の皆様のより一層のご活躍とご健勝をお祈りいたしますとともに、今後ともご指導賜りますようお願い申しあげます。